

# SJAC 宇宙産業シンポジウム

(一社)日本航空宇宙工業会は、去る2023年11月6日(月)、グランドヒル市ヶ谷瑠璃の西間にて、17名の講師をお招きして、宇宙産業に関する情報交換とネットワーキングを目的とした「SJAC宇宙産業シンポジウム」を昨年に引き続き開催した。日本政府の取組や日本の衛星・輸送系・データ利用サービスにおける代表企業の取組みに関して講演いただいた。ここにシンポジウム概要を記す。

## 1. シンポジウム全体概要

政府セッションでは日本の宇宙政策及び事業に関わる政府関係者4名(内閣府、文部科学省、経済産業省、宇宙航空研究開発機構)からそれぞれの政策および取組状況などに関する講演をいただいた。また民間企業の宇宙分野参入に関する先進国であるルクセンブルク大公国からは民間を主体とした宇宙産業政策に関して講演いただいた。次に企業セッションでは宇宙関連企業関係者12名による各企業の宇宙産業に関わる取組状況や今後の計画について講演していただいた。最後に、参加者間のネットワークを実施した。

会場は約100名、オンライン配信では約120名の方にご参加いただいた。



会場の様子

## 2. 政府セッション

(1) 内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 参事官 滝澤豪様より「新たな宇宙基本計画と宇宙安全保障構想について」のタイトルで、令和5年6月に改訂された宇宙基本計画の政策決定の流れ、宇宙を取り巻く最近の状況、宇宙安全保障構想、宇宙基本計画の内容について講演いただいた。



内閣府 滝澤参事官

(2) 文部科学省 宇宙開発利用課 宇宙利用推進室 室長 鈴木優香様より「文部科学省における宇宙分野の研究開発の取組について」のタイトルで、宇宙基本計画・工程表と文部科学省の役割、ロケット開発状況、人工衛星の開発・運用、宇宙科学・探査、有人宇宙活動、産業連携について講演いただいた。



文部科学省 鈴木室長

(3) 経済産業省 製造産業局 宇宙産業室室長 伊奈康二様より「宇宙基本計画を踏まえた経済産業省の宇宙産業政策」のタイトルで、宇宙機器産業についての主な取り組みの具合例として、宇宙安全保障構想、民間小型衛星コンステレーション、経済安全保障重要技術育成プログラム、宇宙ソリューション産業関係の主な取り組みの具体例として、衛星データ利用ビジネス支援及び利用促進のための懸賞金事業、開発中小型多波長センサについて講演いただいた。



経済産業省 伊奈室長

(4) 宇宙航空研究開発機構 新事業促進部部长 伊達木香子様より「JAXAの宇宙利用拡大・産業振興に係る取り組みについて」のタイトルで、JAXA中長期目標である「宇宙

を推進力とする経済成長とイノベーション」についての具体的な施策展開であるJ-SPARC、JAXA出資機能、JAXA-SMASHについて講演いただいた。



JAXA 伊達木部長

(5) ルクセンブルク貿易投資事務所 エクゼクティブ・ディレクター 松野百合子様より「ルクセンブルク経済における宇宙セクターの位置付けについて ビジネス主導の宇宙戦略」のタイトルで、ルクセンブルク政府による宇宙セクターの位置付け、宇宙開発の歴史、宇宙戦略、民間中心の宇宙政策について講演いただいた。



ルクセンブルク貿易事務所  
松野エクゼクティブ・ディレクター

### 3. 企業セッション1 輸送系

(1) 株式会社IHIエアロスペース 宇宙輸送システム技術部長 矢木一博様より「宇宙輸送事業に関する取り組み」のタイトルで、小型衛星コンステレーション構築のためにロケットラインナップ構築への参画や宇宙輸送の将来発展について講演いただいた。



IHIエアロスペース 矢木部長

(2) 三菱重工業株式会社 宇宙事業部副事業部長 五十嵐巖様より、残り3機となったH-IIA打上げ、H-3 2号機打上げ、ISSから宇宙探査へ活動領域拡大、について講演していただいた。



三菱重工業 五十嵐副事業部長

(3) インターステラテクノロジズ株式会社 代表取締役社長 稲川貴大様より、ロケット

開発の実績や将来計画、特に牛糞から生成したメタンを燃料としたロケットの開発を通じてカーボンニュートラルへの貢献について講演いただいた。



インターステラテクノロジズ 稲川社長

(4) 東京理科大学発ベンチャー SPACE WALKER取締役CTO 米本 浩一様より「サブオービタルスペースプレーンの研究開発」のタイトルで、サブオービタルスペースプレーンのロードマップと開発状況について講演いただいた。



SPACE WALKER 米本取締役CTO

### 4. 企業セッション2 宇宙機

(1) 日本電気株式会社 スペースプロダクト統括部長 伊藤武彦様より「NEC 宇宙システム事業紹介」のタイトルで、衛星、地上

システム、搭載機器などの実績や標準小型バスシステム、衛星画像を利用した宇宙利用サービスの実施状況について講演いただいた。



日本電気 伊藤統括部長

(2) 三菱電機株式会社 宇宙システム事業部長 市川卓様より「三菱電機の宇宙事業概況」のタイトルで、宇宙システムの事業紹介、最近のトピックである次期静止気象衛星（ひまわり10号）及び小型月着陸実証機（SLIM）、今後の事業計画について講演いただいた。



三菱電機 市川事業部長

(3) 株式会社アストロスケール 代表取締役社長 加藤英毅様より「軌道上サービス-技術と事業、政策の開発を通じての宇宙の未来を変革する」とのタイトルで、宇宙環境の悪

化（デブリ増加）と軌道上サービス、事業内容について講演いただいた。



アストロスケール 加藤社長

(4) 株式会社Synspecive 取締役 小畑俊裕様より「宇宙からの俯瞰データによる「学習する世界」の実現」とのタイトルで、事業内容、ビジネスモデル、SAR衛星による画像取得とそのデータ利用例について講演いただいた。



Synspecive 小畑取締役

## 5. 企業セッション3 データ利用

(1) 株式会社Space Compass 代表取締役 Co-CEO 堀茂弘様より「Space Compassが目指す宇宙統合コンピューティングネットワーク」とのタイトルで、NTT殿の持つグローバルネットワーク技術とスカパーJSAT殿のも

宇宙事業経験を組み合わせ、地上の災害の影響を受けない宇宙インフラとしての光通信ネットワークを作るための、事業・研究開発などの状況について講演いただいた。



Space Compass 堀Co-CEO

(2) 株式会社パスコ衛星事業部 事業推進部長 奥泉優様より「民生での地球観測衛星利活用の展望」のタイトルで、地球観測衛星のデータ利用の現状とシーズ側技術開発、ユーザ側の横断利用によって活用効果が増大している現状について講演をいただいた。



パスコ 奥泉事業推進部長

## 6. ネットワーキング

新型コロナが5類感染症へと移行後初のシンポジウム開催となり、約100名の方に会場いただいた。セッション間の休憩や民間セッション終了後には多くの方に情報交換、意見交換、名刺交換等のネットワーキングの場として活用いただいた。

## 7. 所感

シンポジウムのアンケート結果からは、講演およびネットワーキングともに満足度が高いことがわかり、準備を進めた甲斐があった。今年は講演がなかった防衛省殿の講演の希望が多かったことと民間セッションの各社の講演時間が短いとの指摘もあり、次回開催時はセッション構成等を含めた見直しを図る所存である。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 技術部(宇宙担当)部長 上野 信一〕